

きて其四面北名然云ぬ由を。ほり朝日北立昇王  
て漸ヤ山南ミぎ方に北を好まての間ミ日縦タと云云。南  
をぬより西ミさま山漸ヤ降タち行く間ミを日横ミと云ひ。  
夕日の降タち陰ミるふ西ミがまより。北をぬより北をぬより  
字陰面と云ふ。陰ミの面の約ミまるなる屋ミし。加茂保憲  
が身ミをみ見えたる月をうきくもの。りくせとふく  
北ミ市ミより東ミを右の間ミを外面ミと云ふ。いはぬなり  
横ミ北直ミの南ミが向ミひる背ミの面ミを以ミふが約ミまる  
なるべし。万葉集ミ卷人の歌に。八隅ミ知之。吾大王乃。  
所聞見為背友乃國之真木立不破山越而伯釵和射

見原乃行宮尔と云るを。美濃國にて。大和の方よ  
り北ミが万ミの當ミたるを以て背友國と云ふ。然り。狭  
北ミの極ミ國ミあるが。その國北北、海を受て。子丑の  
に向日ミと云ふ。高山を外面ミと云ひ。海岸を從ミる外ミ面ミ  
と時ミを以て。其名義ミを同ミのさす。謂ミ由る日縦日横  
名と云ふ。以て。其名義ミを同ミのさす。謂ミ由る日縦日横  
ハ。成務紀に見えたるを。此ミの全文ミを養老私記の  
書ミ御本ミの首ミ書ミを注ミさす。戸家書紀ミに據ミる。日縦北乃多  
合ミ御本ミの首ミ書ミを注ミさす。戸家書紀ミに據ミる。日縦北乃多  
都志ミ尋常ミに云ふ。縦横ミを連ミて。今時ミにテ。然ミ云ミす。第ミ四ミ音  
不ミ轉ミし。云ミふ。縦横ミを連ミて。今時ミにテ。然ミ云ミす。第ミ四ミ音  
漢語抄ミ云ミ。防壁ミ多ミ豆ミ古ミ毛ミと何ミも。縹ミ壁ミ以ミテ。簷ミ着ミ於ミ壁ミ也。  
日横北乃与古志と見えたるハ古語ミなるべし。隨ミふ



我東西南北。山陽山陰。當時曰。云云。と記さきと  
不也。漢文の潤飾。しひらまて。うへりて當時此名稱  
の實に差いできて。きこえおきき文とハなまきる  
り。山陽ハ春秋穀梁傳に。山南。為陽。六書故。山阜之  
山。北向。日謂之陽。山陰。を。説文。山。陰。北也。注。水。南  
下。し。天。武。紀。に。山。陽。道。山。陰。道。東。海。東。山。陽。山  
陰。南。海。筑。紫。と。三。え。る。ハ。天。智。天。皇。の。御。世。始。め  
て。了。漢。様。の。令。制。の。名。給。なる。を。古。く。免。く。り。し。お  
不。う。に。當。て。漢。文。の。名。給。の。多。り。き。を。さ。て。了。た。此  
形。不。う。に。當。て。漢。文。の。名。給。の。多。り。き。を。さ。て。了。た。此  
詔。詞。也。日。豎。日。横。陰。面。背。面。乃。諸。國。人。子。と。詔。へ。る。ハ。  
天。下。の。諸。國。の。人。我。と。詔。穿。義。も。て。心。と。免。く。と。き  
古。文。解。り。〇。割。移。天。大。伴。部。止。號。天。賜。六。獨。命。そ。の。諸

國の人を選び。割造して膳夫とす。其部を大伴部と  
号て六獨命を賜ひて。その宰と為る。屬るなり。後世の  
職。漢風。制。據。里。の。牙。子。今。條。の。職。員。ハ。大。膳。書。紀。行。景  
卷。上。是。時。の。事。を。載。て。白。蛤。為。贈。而。進。之。故。美。六。鴈。臣。  
之功。而。賜。膳。大。伴。部。奉。下。古。事。記。景。行。也。此。之  
御。世。云。と。定。東。之。淡。水。門。又。定。膳。之。大。伴。部。云。云。字。み  
え。と。る。是。不。り。交。膳。大。伴。部。と。云。不。姓。を。賜。字。も。と。非  
る。其。の。譜。に。磐。鹿。六。雁。命。之。後。也。景。行。天。皇。巡。狩。東。國。大  
云。伴。部。得。白。蛤。於。是。磐。鹿。六。雁。為。贈。進。之。故。美。六。鴈。賜。膳。  
大。伴。部。と。見。え。る。名。始。祖。六。雁。命。云。云。の。由。縁。賜。膳。依  
り。其。の。古。事。を。奉。せ。る。ハ。混。る。其。今。現。在。の。氏。姓。氏。譜。依

録て抄本にて。譜の本文を省き、  
他は其證、何れを省くは、此に  
のて、其證、何れを省くは、此に  
まして、みざるは、書成りたる  
。其故、實字正し、何れを省くは、  
。考法、今、の姓氏録の抄本ある由  
のあり。○已上、此事、書紀に、  
年秋八月、乘輿幸伊勢、轉入東海、  
海路渡淡、水門。是時、聞覺賀鳥之聲、  
出海中、仍得白蛤。於是、膳臣遠祖名磐鹿六鴈、  
手襪、白蛤為贈、而進之。故美六鴈、臣之切、而賜膳、  
部。姓、氏録に、膳、大伴部。阿倍朝臣同祖。大彦命孫  
磐鹿六鴈命之後也。景行天皇巡狩東國、至上總國、從

海路渡淡、水門。出海中、得白蛤。於是、磐鹿六鴈為贈、進  
之。故美六鴈、賜膳、大伴部。上の膳、大伴部の事ハ、  
高橋朝臣、阿倍朝臣、同祖。大稻輿命、之後也。景行天皇

巡狩東國、供獻大蛤。于時、天皇嘉其奇美、賜姓膳、臣。此  
に、六鴈命の名を云はき、ところるに、無き。抄本  
の省畧さ、多の疎りしあり。さて、是時、膳、臣と名  
を肩せ、ゆへに、其の後に、氏とを、上り、か、記を  
るに、ハ、阿、ら、を、其、を、後、に、氏、と、を、上、り、か、記、を  
るに、ハ、阿、ら、を、其、を、後、に、氏、と、を、上、り、か、記、を  
お下、の、論、ふ、ハ、此、事、な、天、濟、中、原、瀛、真、人、武、澄、天、十、三、年、諸  
三、を、二、誤、り、也。改、膳、臣、賜、高、橋、朝、臣、天、武、紀、十、三、  
今、一、本、は、朝、臣、姓、を、賜、し、中、に、膳、臣、あり、古、事、記、傳、に、  
三、氏、の、朝、臣、姓、を、賜、し、中、に、膳、臣、あり、古、事、記、傳、に、  
此、賜、姓、の、事、を、論、ひ、膳、臣、改、高、橋、朝、臣、あり、古、事、記、傳、に、  
記、書、紀、其、後、持、統、紀、五、年、十、八、氏、改、高、橋、朝、臣、あり、古、事、記、傳、に、  
五、十

は膳部守あり。但中臣連を藤原氏と云ふ。天智御代に御世は朝臣姓。賜し給ふ。此中臣と云ふ。例と同く。此も。その不と既高橋守と云ふ。崇神紀。高橋。神名或高橋神社。武烈紀。高橋氏を賜ひ。事。此氏文に。是なり。と云ふ。高橋氏を賜ひ。事。此氏文に。くを。一。記。今全文傳はらざる。ハ。不考。見元。全。

又諸氏人。東方諸國造十二氏。乃枕子各一人。令進天。平。次。比例給。天依賜支。

諸氏人。こ。よ。ハ。諸氏の長。ぢ。イ。何。人。を。選。り。て。以。へ。る。な。る。ハ。〇。東方諸國造十二氏。氏。此。十二。書。類。後。本。には。十七。氏。と。有。り。東方十二國。此國造。な。誤。寫。なり。以。右。一。本。は。依。ま。り。

古事記崇神段に。建沼河別命遣東方十二道而令。和乎其麻都漏波奴人等云。造。瑞籬朝皇子。豊城。八。彦命。孫。彦。狭。島。命。初。治。景。行。段。も。詔。倭。建。命。言。向。和。乎。東。方。十。二。道。之。荒。夫。流。神。及。麻。都。樓。波。奴。人。等。云。々。等。見。え。と。數。を。崇。神。段。の。傳。に。十。二。道。七。十。二。國。有。り。造。本。紀。上。毛。野。國。造。の。條。に。東。方。十。二。國。と。有。り。云。々。十。二。は。何。れ。此。國。々。を。合。せ。る。數。有。り。今。は。伊。勢。伊。賀。志。摩。知。り。伊。勢。伊。賀。志。摩。伊。勢。伊。賀。志。摩。尾。張。冬。河。遠。江。駿。河。甲。斐。伊。豆。相。模。武。藏。總。下。総。な。り。安。房。八。後。上。常。陸。奥。な。り。等。と。て。不。不。こ。總。と。分。ま。た。り。常。陸。奥。な。り。等。と。て。不。不。こ。





此等古書どもを併考めに。比例ハ古此女此服具  
ホテ。白き帛類を也。弘二幅。中一幅。作を。項上  
より肩へ嬰て。左右の前へ垂せ。もとのときこえと  
り。枕草子御経の事の條。何れとていへるころハ。采女  
八人馬。此をて引出せり。青皮をこの裳。くといひ  
きなどの。風にふきおられ。いとを。といへ  
るをもおもひあそむ。古事記傳四十二卷。見  
えて知り。天武紀十一年三月の詔。親王以下。  
百寮諸人。自今以後云々。膳夫采女等之手襷。肩中。  
此例。並莫服。並記をきき。をおもふに。當時。す

ハ。膳夫之手襷。采女之肩中。依礼服とて。嬰不御定  
なりし。と知らき。然る。續紀慶雲二年四月  
の下。先是諸國采女。肩夫。曰。依令。停之。至是。復舊焉  
と見え。此時。膳夫之手襷。も。曰。復さ。ま。り。さ  
る。女。の。比。例。も。と。手。襷。比。料。也。常。に。項。に。嬰。を。り。て。  
手襷。嬰。も。の。なる。お。の。つ。ら。う。錯。の。お。と。く。礼

服。も。な。ま。り。る。もの。なる。ハ。書。紀。崇。神。卷。下。填。安。彦。  
美。領。中。頭。而。云。欽。明。卷。の。哥。羅。母。俱。爾。能。基。能。倍。  
你。院。致。底。於。譜。磨。故。幡。此。例。甫。利。斯。云。中。中。中。中。  
良。我。多。佐。欽。比。讀。有。能。何。比。例。布。利。斯。云。中。中。中。中。  
極。每。部。處。ヤ。尋。比。纒。有。領。中。文。光。蟹。云。中。中。中。中。  
俗。り。小。婢。ふ。の。此。常。不。手。襷。を。環。事。を。嬰。云。中。中。中。中。  
五十四





依任をて。執行ハせしむり。由なり。  
山野海河者多介久久乃佐和多流美岐波加弊良乃加用  
布岐波多乃廣物波多乃狭物毛乃荒物毛乃和物供  
御雜物等兼撰取持天仕奉止依賜。

山野ハなべいの例れごとく。奴也末とむむくね  
もひつまど。万葉集に。安之比奇能。夜麻野佐導良受  
ととえきま。字のまにむむべ。多介久々  
蟾蜍の古名なり。まきに駿河國島田人服部某談々  
らく。大井川の三里餘川上なる山此谷也。蟾蜍の  
心と大なるある。其山里人ス。シグ。石堂ガ

シグとを以て。この物此性心と静まて。さばうり  
人ふも懼きま。ものあることハ。誰も知ま。ま  
ふる。大なるハ殊に遠ふと。徐なる。童子の捕  
還ま。繫き置き。或ハ桶櫃能と。覆をた。と色  
良きハ怪。脱去して。本處ハ還居る事あり。いと  
希異。そのなりと。死々皇と語。尋常の蟾蜍  
不事ありと。兒童の見る事。式。祈年祭祝詞に。  
其脱去。事ハ。見。式。祈年祭祝詞に。  
皇神乃敷生流。島能八十島者。大八洲。谷蟻能狭度極。  
塩沫能留限云々。祝詞ハ。万葉集五卷。許能  
提羅周。日月能斯多波。阿麻久毛能。牟迦夫周伎波美。